



めぐりめぐる住宅地 — 漁家集合のフラクタルな手法による郊外住宅地の再編 —



河西 孝平 (かわにし こうへい)
千葉大学 工学部 都市環境システム学科



O2 protique à research

つながりのない住宅地 / 隣組が介するセサ

漁家集合のフラクタルな手法に導かれた集落形態をベースに、従来のフロアプランを拡張することにより、シフトした敷地をフラクタルな手法で高密度に建築可能な設計を実現し、以下に設計手法として展開する3つの視点を提示する。

視角1 / 隣家集合のフラクタルなルール	視角2 / フロアプランの拡張による拡張	視角3 / 外部空間の拡張による拡張
<p>隣家集合のフラクタルなルール</p> <p>隣家集合のフラクタルなルールを提示する。</p>	<p>視角2 / フロアプランの拡張による拡張</p> <p>従来のフロアプランを拡張することにより、シフトした敷地をフラクタルな手法で高密度に建築可能な設計を実現し、以下に設計手法として展開する3つの視点を提示する。</p>	<p>視角3 / 外部空間の拡張による拡張</p> <p>外部空間の拡張による拡張を実現する。</p>

O1 message

フリエタイプな住居集合の手法を再考し、展開する

漁家集合の集落形態をベースに、従来の集落形態を拡張し、フロアプランを拡張することにより、シフトした敷地をフラクタルな手法で高密度に建築可能な設計を実現し、以下に設計手法として展開する3つの視点を提示する。

O3 design

隣組を有したユニットをフラクタルな手法で配置する

本設計は、従来のフロアプランを拡張することにより、シフトした敷地をフラクタルな手法で高密度に建築可能な設計を実現し、以下に設計手法として展開する3つの視点を提示する。

原始的な集落形態をいまに残す離島漁村集落。研究では漁家集合のフラクタルな手法を発見し、プロジェクトにそれらを展開することで、隣家と空間的つながりを有する住宅地のつくり方を提案する。計画対象地は千葉県佐倉市ユウカリが丘。高齢化の進行が予想されるこの街で街区レベルでの住宅更新の在り方を探る。すべての住宅が隣家の外壁に向かって開くことで、住民はその外壁を利用して領域（テリトリー）をつくりだす。従来行なわれてきた隣家関係を意図しない設計手法とは異なり、住空間を周囲の空間的狀況からつくり出し、住民の生活が溢れ出す豊かな外部空間を構成する設計手法は地域社会を重視する郊外住宅地において有効であると考ええる。



講評

「漁家集合のフラクタルなルール」と呼ぶパターンから生まれる戸建て住宅地の提案である。綿密な調査に基づく考察とその応用としての提案は明快であり、家と周辺との関係からその集落を成立させる条件を分析、類型化して住居集合の新たな方法を探ろうという意図が伝わってくる。何より3～4年の2年間に西日本の5つの集落調査をやった熱意と、それにかけた相当のエネルギーに敬意を払いたい。調査から導かれるフラクタルと呼ぶ住戸配置、共用空間としての路はテリトリーと呼ぶ家、庭との関係から緩やかにヒエラルキーづけられている。大小さまざまな路に設けられた畑や共有のキッチン、路に開いたり閉じたりする家は魅力的であり、コミュニティー＝一緒に住むことの意義、可能性が試みられている。但し、調査から抽出される普遍性と土地の風土との関連、特に調査された漁家（厳しい自然への適合と助け合いとしてのコミュニティー）が特殊解である以上、設定された計画地への適用、（その土地固有の風土抜きの）は疑問である。更に、調査からジャンプアップした、フラクタル性を破るような提案があっても良かったのではと思われる。将来、学究肌であろう作者の確かな計画に基づく魅力的な街づくりに期待したい。（審査委員：柳田 富士男）

